

第24回 芦原科学賞大賞受賞者インタビュー ～舶用ディーゼルエンジンで世界のトップシェアを獲得～

大津理事長が株式会社マキタを訪問

「第24回芦原科学賞」で大賞を受賞（テーマ：舶用エンジンの世界最高水準の品質と生産効率達成技術の開発）された「株式会社マキタ 舶用エンジンの品質・生産効率向上プロジェクトチーム」を代表して製造部機械課の鴨課長と推薦者の横田社長を訪ね、（公財）かがわ産業支援財団 大津理事長が、開発・改善のご苦労やこれからの展望と抱負についてお聞きしました。

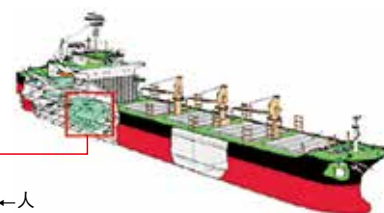
訪問した株式会社マキタ（高松市朝日町）は、積載重量1～4万トンクラスの小型船舶のディーゼルエンジンの製造において世界トップシェアを誇る会社です。



芦原科学大賞贈呈式の受賞者記念写真
左から岡田さん（藤岡さん代理）、池田さん、熊野さん、
須浪さん、横田さん（推薦者代理）、鴨さん



▲マキタが製造する舶用ディーゼルエンジン



←人

■芦原科学大賞の受賞

理事長：この度は、芦原科学大賞受賞誠にありがとうございます。まず、受賞されたお気持ちをお聞かせください。

鴨課長：栄誉ある賞であり、大変うれしく思っています。これからも頑張らなくてはという気持ちになりました。社外の人からも「新聞で見ましたよ。おめでとうございます。」という声や、詳しい情報を教えてほしいと聞いてこられた商社の方などもありました。



受賞者代表 鴨課長



推薦者 横田社長

横田社長：率直にうれしいです。客観的な立場で高く評価していただいたことは、我々の自信にもなり、今後の糧にもなりました。ありがとうございました。

■プロジェクト立上げの経緯と成果

理事長：このプロジェクトチームを立ち上げるきっかけは何だったのでしょうか。

鴨課長：船の心臓はエンジンであり、クランク軸はそのエンジンの心臓となる重要な特殊部品です。この重要なクランク軸の生産性を上げ品質を高めることが、他社をリードする上では不可欠だとの判断で、約10年前にプロジェクトチームを立ち上げました。

理事長：どのような開発や改善を行ったのでしょうか。

鴨 課 長：もともと職人さんが古い機械を使い、最後は手作業で感覚的に仕上げていたクランク軸の加工技術をプログラム化するとともに、クランク軸加工用旋盤の構造や強度を一から見直し、比較的若い社員でも機械だけで加工できるような工作機械、加工方法、工具を開発しました。開発にあたっては、職人さんがやっていたことを全て細かく聞き出して、クランク軸素材購入先やメーカーからも情報を集め、それらを分析・整理して工作機械メーカーと何回も打ち合わせて仕様を決めていきました。現場が要望していることと、機械ができる能力をどこで折り合いをつけるかが大変難しかったです。



(ジャーナル旋盤)



(ピンレス)

開発・導入したクランク旋盤

理 事 長：クランク軸の加工で最も神経を使うところは、どこですか。

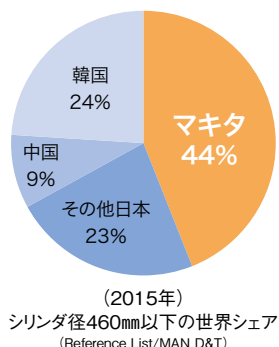
鴨 課 長：クランク軸は軸の円筒の精度がでないといと30年、40年の航海でエンジンのどこかが壊れてしまいます。クランク軸はカンナをかけるように、ヘールバイトという特殊な刃物を当てて1000分の数mmというミクロン単位の薄さの切粉を出しながら削っていきます。この最後の仕上げに神経を使います。

理 事 長：今回の成果によって、他社より優位に立ったと思われる点はどこですか。

鴨 課 長：他社では手仕上げでやっているクランク軸の最終仕上げのところまで、当社は機械でできるようにしたことにより、生産効率と品質の向上ができ、この点でまさかと思っています。

理 事 長：世界で圧倒的なトップシェアをお持ちですが、お客さまが「マキタ」を選ぶ理由は何だと思えますか。

横田社長：信頼あるエンジンを提供し続けていることだと思います。当然ですが、エンジンが止まると船は止まり、そうすると安全上の問題だけでなく、お客様は1日何百万円もの損失になります。また、他社からマキタに変えて、メンテナンスコストが低減できたという声をよく聞きます。品質の高い壊れにくいエンジンを提供し、それで勝ち得た信頼が、お客様の次の船の発注を当社へと後押しするのだと思っています。

(2015年)
シリンダ径460mm以下の世界シェア
(Reference List/MAN D&T)

■若手が躍動するマキタ

理 事 長：御社は、この10年で従業員数を倍増されています。また、社長をはじめ社員の平均年齢も34歳と大変お

若いですが、人手不足、従業員の高齢化などの問題をどのように克服されたのでしょうか。

横田社長：当社は幸いリーマンショック前後も業績が伸びていたため、当時も継続して社員を採用することができました。他の産業は業績悪化で逆に採用を減らしていたので、当社はタイミングに恵まれていました。また、入社後早い段階で仕事を任せられて活躍できるというのは、学生から見ると魅力的なのだと思います。

理 事 長：若い社員がどんどん責任ある仕事をすることで、会社も成長したんですね。鴨課長は、いかがですか。

鴨 課 長：私は41歳ですが、2年前から機械課の課長になって部下が67人にもなりました。最初は不安でしたが、皆の協力で乗り越えることができました。

横田社長：鴨課長は、当社の中心的な立場にいますし、すでにベテランです。

■今後の展望と抱負

理 事 長：今後の事業の展望と取り組み方針についてお聞かせください。

横田社長：当社は、今年で創立107年を迎えましたが、さらに今後50年以上続く会社になりたいと思います。そのためには、改善活動をさらに力を入れて取組んでいきたいと考えています。改善活動は収益だけでなく品質の改善にもつながります。努力が一番実る活動で、そこを突き詰め、高めることにより、他社との差別化をさらにはかりたいと思っています。

理 事 長：受賞者を代表して、今後の抱負をお聞かせください。

鴨 課 長：今回、私たちのプロジェクトチームが自分たちの仕事として取り組んだ成果を高く評価していただき、大きな自信につながりました。今も社内では様々なプロジェクトが進行していますので、今回の受賞を誇りに、これらのプロジェクトも成功に導き、さらに品質・生産効率が向上できるように努力していきたいと思っています。

理 事 長：本日は素晴らしいお話をありがとうございました。これからも「世界のマキタ」として、さらにご発展されることを期待しております。

創業者 横田久氏の肖像画の前で
(左から 横田社長、鴨課長、大津理事長)

■インタビューを終えて

社長をはじめ若く活気に満ちた「世界のマキタ」の実力と可能性を感じることでできる、楽しく夢のあるインタビューでした。今後のご活躍を楽しみにしております。